

看護学生が大学行事に参画する意義と看護教育活動としての効果

— オープンキャンパスに関する学生へのアンケート結果から —

広島文化学園大学看護学部

讃井 真理, 田村 和恵, 平間かなえ
浅香真由巳, 今坂 鈴江, 原 ひろみ
迫田千加子, 岡本 響子, 熊田 栄子

論文要旨 現在、学士課程の教育及び看護系人材育成は、知識や技術だけでなく利用者のニーズに対応し、応用力のある人材を、また、自発的な能力開発を継続するための素養を育成することが求められている。今回、本学の1年次～4年次の学生とオープンキャンパスに参画した学生に、オープンキャンパスという大学行事への参加に関するアンケートを実施した。その結果、1年次生のオープンキャンパス時の入学動機では、ボランティア学生と教職員の対応、またその関係性から感じ取った大学全体の雰囲気の良いさを評価していた。そして、様々な模擬体験、或は学生ボランティアや教職員との関わりを楽しさと受け止め、学ぶこと・知ることへの意欲が記述されていた。オープンキャンパスに向けた後輩への選好メッセージを、各学年別に類似している内容毎カテゴリー化した。全学年に共通した項目は、仲間および教員との関係性を示す内容と、看護を学ぶことへの充実感、後輩への励ましと応援であったが、学年によってその内容に変化が見られた。学生は他者との関わりを通して、看護職者として不可欠である人間関係を構築していることがわかった。更に、正課外活動が、学生の主体的・自主的に学ぶ機会となっており、学生が主体的に学ぶことを支援することに繋がると考えられた。

キーワード：看護学生、学生参画、看護教育、オープンキャンパス

■ 序 論

平成20年12月、中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」において、各専攻分野を通じて培う学習成果の参考指針（学士力）として、知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、総合的な学習経験と創造的思考力が示された¹⁾。また、平成23年3月に大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会が示した「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告」では、専門職として能力開発に努め、あらゆる利用者のニーズに対応し、応用力のある人材養成を目指すこと、また、学士教育課程としては、自発的な能力開発を継続するための素養を育成することが重要であることが示された²⁾。

学生参画による様々な教育的効果が報告され、

近年ではFD（Faculty Development）の一環として学生の参画を組織の中に組み入れて大学のカリキュラムの改正、オープンキャンパスの学生主体の運営を行っている大学など報告がなされている³⁻⁶⁾。各大学で行われているオープンキャンパスは、入学を希望する或は入学を検討している学生に対して、教育施設であるキャンパスを開放し、学内の設備だけでなく、そこで行われている講義等を体験することによって、進学への意思決定と、進学に対する学習意欲を高めるための情報提供をおこなう場である。本学においても、様々な広報活動を経て年数回のオープンキャンパスを実施している。そのオープンキャンパスでは年々大学生ボランティアの参加者が増し、延べ人数にして在学中大学生の半数が来訪者の案内、模擬講義への参画、来訪者の相談等の対応を積極的に行っている。

さない まり

〒737-0004 広島県呉市阿賀南2-10-3 広島文化学園大学看護学部

大学生の生活経験の希薄さ、看護技術の到達度の臨床との乖離が取り上げられる中、大学生がオープンキャンパスで出会う様々な人との関わりは、学習過程にある看護大学の学生にとっては貴重な生活経験となると考える。更に、大学生が積極的にかかわることは、参加した大学生自身だけでなく、来訪者の方々の満足度と目標達成度も高まることを経験的に感じているところである。

看護師教育の基本的考え方について、看護師等養成所の運営に関する指導要領⁷⁾には、人間を統合された存在として幅広く理解する、人々の健康と生活をダイナミックな相互作用等の観点から理解する、多様な価値観を認識する、科学的根拠に基づいた看護実践、状態に応じた看護実践、社会的資源を活用できるような調整能力、以上の基礎的な能力を養うことが示されている。今回は看護学生が大学行事（オープンキャンパス）に参画することが、看護学生にとってどのような体験となっているのか、学生生活での体験を通して何を学び取っているかといった看護教育としての効果を検討する。

■ 目 的

1 年次生への過去のオープンキャンパス参加状況及び入学動機、また、各学年への後輩へのメッセージ調査及びオープンキャンパスに参画したボランティア学生へのアンケート調査から、学生が大学行事に参画する意義と看護学における教育的効果について検討する。

■ 方法及び内容

2009年5月に1 年次生を対象にオープンキャンパス参加状況についてアンケートを実施した。同年6月までに順次1 年次生から4 年次生を対象にオープンキャンパスで紹介したい本学の選好事項、及び看護を学ぶ人へのメッセージについて、オープンキャンパスのパンフレットに載せるメッセージとして自由記載で記述してもらう調査を実施した。『未来の看護学生へのメッセージ』については、共通項目としたが、学年で経験知が違うため、その他の質問は学年別に多少の変更を加えた。1 年次生へは、『本学部のキャンパスライフで楽しいこと』、『看護学部を選んだ理由』を質問項目とした。2 年次生・3 年次生へは『本学部の

自慢するとしたら』、『専門科目を勉強するときに工夫していること』とした。4 年次生へは『実習の良かった体験・嬉しかった体験』、『実習で大変だったこと』とした。自由記載の内容を類似している内容ごとに分類しカテゴリー化した。

また、3 回のオープンキャンパスにボランティアとして参画した大学生を対象に、オープンキャンパスに参加しての思いを自由に記載してもらった。オープンキャンパスの学生ボランティアは、4 月以降各領域教員とオープンキャンパス系の教員によって調整される。当日何らかの役割を担う参加学生は延べ250名であった（6 月40名、8 月121名、9 月89名）。この学生以外にも、ポスター作成等の役割を担った学生も存在する。6 月と8 月の参加学生は8 月に、9 月に参加した学生には9 月のオープンキャンパス後に、参加動機と満足度についてアンケートを実施した。2 回のアンケートの回答者は162名（延べ参加者の64.8%）であった。アンケートの自由記載を類似の内容ごとに分類し、カテゴリー毎に表題をつけ、その表題のみ示した。なお、毎回参加している学生もいるため、重複したアンケート回答もあるが、それも含めてまとめた。

■ 倫理的配慮

アンケート実施については、各学年ともオープンキャンパス系の教員が、担当科目以外の講義終了後にアンケート用紙を配布し、無記名で回収した。オープンキャンパスのボランティア募集の内容も含まれるため、調査の趣旨と併せて、ボランティアへの参加、不参加が今後の学内成績に影響しないこと等を口頭で説明した。結果は公表される旨を説明し、提出をもって同意とした。

■ 結 果

1. 1 年次生の過去のオープンキャンパス参加状況

1 年次生128名（回答率91.4%）の回答結果を図1～図3に示す。6 割の学生が本学オープンキャンパスに参加し、参加した79名のうち無回答2名を除き、34名（45%）は複数回の参加であった。他大学のオープンキャンパスへ参加していない学生は43名（34%）であった。また、アンケートに参加した128名中109名（85.6%）のオープン

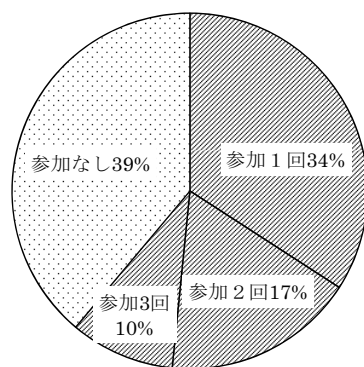


図1 本学オープンキャンパスの参加経験と参加回数

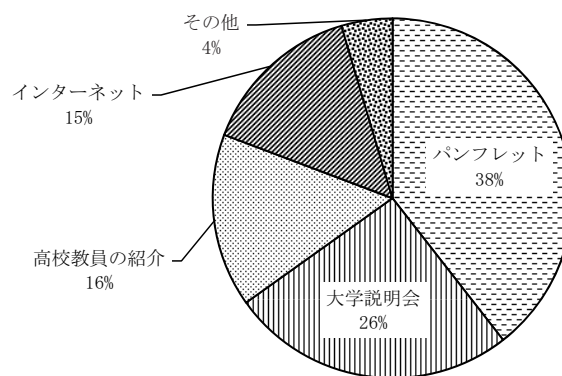


図3 本学オープンキャンパス情報入手方法

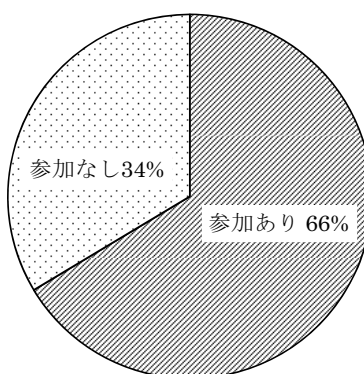


図2 他大学オープンキャンパスへの参加の有無

キャンパスに関する情報入手先は、パンフレット (38%)、大学説明会 (26%)、高校教員からの紹

介 (16%)、インターネット (15%)、その他 (5%) の順であった。

自由記載で得られたオープンキャンパス時における入学の動機付け内容66件を、類似する内容で分類し表1に示した。その結果40件 (60.1%) は、ボランティア学生と教職員の対応、またその関係性から感じ取った大学全体の雰囲気の良いさを評価していた。そして、16件 (24%) が、様々な模擬授業等の体験、あるいは学生ボランティアや教職員のかかわりを楽しさと受け止め、学ぶこと・知ることへの意欲を記述していた。入学及び受験に対する情報については、相談対象の有無やその対応を評価しており、8件 (12.2%) の記述が見られた。

表1 1年次生のオープンキャンパス参加状況にみる入学の動機付け要因

大項目	件数	小項目	件数
先輩・教員とのかかわりからの好印象と関係性から見えた雰囲気	40 件	先輩との関わりから感じた印象	18 件
		先輩・教員のかかわり方感じたやさしさ	8 件
		全員の関わりから感じた明るさ	5 件
		全体から感じた雰囲気の良さ	9 件
体験を通して感じた楽しさと学びの動機付け	16 件	関係性から感じた楽しさ	10 件
		体験で感じた楽しさと分かりやすさ	4 件
		知ることへの意欲	2 件
入試・受験へ向けての相談対象の有無と情報提供力	8 件	相談相手と情報提供者の有無	3 件
		入試方法の情報提供	3 件
		受験に向けての相談に対する対応	2 件
その他	2 件	自分にあっていると思った	1 件
		イメージ通りだった	1 件
合計		66 件	

2. オープンキャンパスに向けた各学年別の後輩への選好メッセージ内容

アンケート参加者は、1年次生61名、2年次生97名、3年次生22名、4年次生38名であった。全学年共通した項目は、仲間との関係、及び、教員との関係を示す内容と、看護すること学ぶことへの充実感、後輩への励ましであったが、それぞれ学年別にその内容は変化している。

1年次生の内容からは、仲間との関係を築くことと、これから始まる新しい生活への期待と不安がうかがえる（表2）。その中から高校生とは身近な関係であることから、高校生から大学生となる1年間を過ごしてきた経験からの励ましの内容となっている。2年次は仲間とどう関係性を深められるかといった内容が多く、教員との親和性も記述されている。また、学ぶために必要な環境や心理面のメッセージを記載していた（表3）。

3年次になると、学習の進行度に合わせて、仲間との関係がより発展的な内容となり、教員との関係が、親和性からより深い関係性を示す記述であった（表4）。4年次生は実習を通して、仲間との協力関係を深めながら、患者や看護師といった他者と、学内では感じられなかった教員を仲間とする関わりから自己の成長に気づき、看護する充実感を記述していた。また、後輩へのメッセージは、1年次生とは違った、具体的な応援であり、実習前半を終えた経験者としてのアドバイスという形で、記述されている（表5）。

3. ボランティア学生のオープンキャンパス参加動機と参加した学生の思い

参加動機については表6に示した。総数175件の自由記述があり、そのうち43件（24.6%）は教員に勧められて参加している。次いで、対価（学内で使用可能なコピーカード等、参画学生に配布するTシャツ）を参加動機としたものが23件（13.1%）、前回参加して楽しかったからが20件（11.4%）、先輩や友人からの勧めが13件（7.4%）、興味があった、毎回参加している、セミナーの一環との記述はそれぞれ12件（6.9%）であった。更にサークル活動の一環としての参画が8件（4.6%）、体験講座内容への関心6件（3.4%）、高校生のときの参加が楽しかった、役に立ちたいが各5件（2.9%）、高校の後輩の案内3件（1.7%）と続く。その他、自己の成長、勉強になる、自身の楽しみ、他学年との交流、就職活動に生かした

表2 1年次生の後輩に向けた大学選好内容（n=61）

カテゴリー項目	件数	%
仲間との関係性	16件	(23.5)
憧れとやりがいのある看護師への道	12件	(17.6)
看護を学ぶ楽しさと勉強の大変さ	10件	(14.7)
看護を学ぶ意義と充実感	9件	(13.2)
後輩への励まし・応援	7件	(10.3)
教員を含めた快適な環境	6件	(8.8)
将来性のある資格取得	5件	(7.4)
高校時代と違う自由感	3件	(4.4)
合計	68件	(100)

表3 2年次生の後輩に向けた大学選好内容（n=97）

カテゴリー項目	件数	%
自分なりの学習方法とやりがい	33件	(33.3)
仲間との関係性	24件	(24.2)
教員との親和性	20件	(20.2)
学ぶための環境	9件	(9.1)
後輩への励まし・応援	5件	(5.1)
資格取得のためのメリット	4件	(4.0)
乗り越えるための意思	3件	(3.0)
看護への期待	1件	(1.0)
合計	99件	(100)

表4 3年次生の後輩に向けた大学選好内容（n=22）

カテゴリー項目	件数	%
仲間との学習方法	10件	(29.4)
仲間との協力性	5件	(14.7)
環境的条件	5件	(14.7)
教員との関係性	5件	(14.7)
後輩への応援	5件	(14.7)
看護する意義と学びの大変さ	3件	(8.8)
資格取得のためのメリット	1件	(2.9)
合計	34件	(100)

表5 4年次生の後輩に向けた大学選好内容（n=38）

カテゴリー項目	件数	%
自己の成長の実感	21件	(33.3)
具体的な後輩への応援とアドバイス	14件	(22.2)
看護する充実感	13件	(20.6)
教員も含めた仲間との協力関係	6件	(9.5)
実習の難しさ	5件	(7.9)
患者さんとの関係性から実感する感謝	4件	(6.3)
合計	63件	(100)

表6 オープンキャンパスにボランティアとして参加した学生の参加動機（重複回答）

順位	大項目	件数
1	教員からの誘い	43 件 (24.6%)
2	コピーカード、図書カードがもらえる	23 件 (13.1%)
3	前回参加して楽しかった	20 件 (11.4%)
4	先輩・友達の誘い・勧め	13 件 (7.4%)
	興味があった	12 件 (6.9%)
5	毎回参加しているから	12 件 (6.9%)
	セミナーの一環	12 件 (6.9%)
6	サークル活動	8 件 (4.6%)
7	体験講座内容への関心	6 件 (3.4%)
	高校生のときの参加が楽しかった	5 件 (2.9%)
8	役に立ちたい	5 件 (2.9%)
	自己の成長	3 件 (1.7%)
9	後輩を案内する	3 件 (1.7%)
	勉強になるから	3 件 (1.7%)
10	自分自身が楽しみたい	2 件 (1.1%)
	高校生に楽しんでもらいたい	1 件
	時間があった	1 件
11	就職活動に生かす	1 件 (2.9%)
	大学行事に参加したい	1 件
	他学年と交流がしたい	1 件
	合計	175 件 (100%)

表7 オープンキャンパスにボランティアとして参加した学生の思い（重複回答）

順位	大項目	件数
1	高校生と交流してよかった	50 件 (21.7%)
2	楽しかった、参加してよかった	48 件 (20.9%)
3	勉強になった	38 件 (16.5%)
4	次回も参加したい	18 件 (7.8%)
5	達成感・充実感	14 件 (6.1%)
6	疲れた	11 件 (4.8%)
	多くの人と交流できたことが良かった	10 件 (4.3%)
7	良いオープンキャンパスになった	10 件 (4.3%)
	疲れたが楽しかった	6 件 (2.6%)
8	サークルで活動ができてよかった	6 件 (2.6%)
9	大変さがわかった	5 件 (2.2%)
	入学してほしい	3 件 (1.3%)
10	自分の大学への認識がプラスに変化した	3 件 (1.3%)
	もっと高校生と話したかった	3 件 (1.3%)
	その他 先輩を見直す	1 件
	1 年次・2 年次生ががんばっているので安心	1 件
11	4 年次の良い思い出	1 件 (2.2%)
	今回は結構ゆつくりできた	1 件
	次回への希望	1 件
	合計	230 件 (100%)

いといった動機を記述していた。

ボランティアに参加した学生の思いについては表7に示した。総数230件の記述が見られた。高校生との関わりを楽しみとしたものが50件(21.7%)、楽しかった・参加してよかったが48件(20.9%)、勉強になったが38件(16.5%)、次回も参加したい18件(7.8%)と、達成感・充実感の記述が14件(6.1%)、また、多くの人と交流することができた、良いオープンキャンパスになったが各10件(4.3%)、自分が通う大学の認識がプラスに変化した3件(1.3%)であった。一方で疲労感11件(4.8%)、大変さがわかった5件(2.2%)等の記述も見られたが、満足度は低くない結果であった。

■ 考 察

大学行事は、直接授業科目等に関連する正課活動と、今回示したオープンキャンパスや、生活支援、社会貢献活動に関連した正課外活動など様々である。そして、学生が参画している正課、或は正課外の活動内容や参画状況もまた、それぞれの大学によって多様である。正課への学生参画は、直接授業過程に反映されるため、その効果は示しやすいものが多い。しかし、看護師等養成所の運営に関する指導要領に示された内容への正課外活動の効果は、これまであまり明確にはされてこなかった。今回まとめた結果でも直接的な教育効果は示すことは出来ない。しかしながら、オープンキャンパス参画という正課外の活動を通して、学生は、大学への関心を深め、仲間や先輩との関係性を明確にしながら、高校生やそのご家族とかかわりを持ち、達成感ややりがい感、更には学習意欲を満足させることにも繋がっていると考えられた。このことは、看護師養成所運営に関する指導要領⁷⁾で示されているように、看護教育の活動は人への理解を深めながら、人との関係性を築く、そして、自己の行動が人へ与える影響も理解していくことに繋がると考える。

学年別の大学選好理由を見てみると、結果でも示したように、1年次生の内容からは、仲間との関係を築くことと、これから始まる新しい生活への期待と不安がうかがえ、1年間の経験からではあるが、高校生の身近な存在としての励ましを記述していた。2年次は仲間と関係が深まり、教員との関係も深めつつあることが伺える内容であっ

た。3年次になると、仲間との関係性がより発展的な協力的な内容となり、教員との関係も、基礎看護学実習を通して学内の講義とは違ったより信頼性の高い関係を築いていると表現されていることが考えられた。そして、最終学年である4年次生は実習を通して、教員も含めた仲間との協力関係を深め、これまでとは違い患者や家族といった他者と関係を築くことによって、看護する充実感を感じ表現されていた。これらの結果は、看護職者として不可欠である人間関係を構築していく過程を示していると考えられる。学生は1年次から様々な仲間や教員、患者やその家族との関わりを通して、人との関係を築くことを学んでいる。正課活動だけでなく、大学行事に参画するだけでなく、そのどちらもが重要視されてはじめて学生の主体性と自主性を尊重した、更に、人間関係構築に向けた学習支援が可能となる。

今回参加したボランティア学生の参加理由は多様であり、それぞれに目的を持って参加していた。佐藤⁸⁾は、FD (Faculty Development) の視点からの学習支援について、看護専門職は自らの資質の向上のために学習し続ける必要性を述べ、そのために「主体的に学ぶ態度(主体的学習態度)」と、自ら疑問に気づき、或は問いを見出し、自主的に問題対決を図る態度(自主的学習態度)」を培っていかなければならないと論じている。教員等その他の立場から導かれるのではなく、自分で決定する活動を行うための態度を、大学教育の4年間で育成していくことを意識しながら教育活動を行っていく必要がある。今回のようなオープンキャンパス等の正課外の活動は、学生が主体的・自主的に学ぶ機会となっており、学生が自主的に学ぶことを支援することにもなる。

ボランティア学生へのアンケートは、できる限り重複を避けるために、2回の実施としたが、重複して回答している学生がいることから、結果の偏りを排除することはできなかった。

■ 結 論

今回オープンキャンパスを通して、学生がどのように大学行事に参画し、他者とかかわりの中から何を学び取っているかを検討した。学生は大学への関心を深め、仲間や先輩との関係性を明確にしながら、高校生やそのご両親とかかわりを持ち、達成感ややりがい感、更には学習意欲を満足

させることに繋げていた。また、学生は他者との
かかわりを通して、看護職者として不可欠である
人間関係を構築していくことがわかった。更に、
正課外の活動は、学生が主体的・自主的に学ぶ機

会となっており、学生が主体的に学ぶことを支援
することに繋がる。大学4年間を通して、正課、
正課外の両面から大学行事に学生が参画すること
は、看護学を学ぶ学生にとって重要である。

引用文献

- 1) 中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」(平成20年12月) 各専攻分野を通じて培う学士力～学士課程共通の学習成果に関する参考指針～, pp.12-13, 2008.
- 2) 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告, p.8, 2011.
- 3) 瀬尾卓司, 田口宗太郎, 中山裕介他: 学生募集の場としてのオープンキャンパスにおける医学生による企画とその成果, 医学教育, 39巻 Suppl, p.106, 2008.
- 4) 宮本佳世乃, 土澤るり, 石川美智子: オープンキャンパスの活動を通じた学生の体験の意義, 日本看護研究学会雑誌, 30巻3号, p.176, 2008.
- 5) 久留島美紀子, 伊丹君和, 本田可奈子他: オープンキャンパスにおける模擬演習の試みー基礎看護領域の実践ー, 人間看護学研究, 5, pp.131-136, 2007.
- 6) Benesse 教育研究開発センター教育情報サイト 特集 学生の活力を改革に生かす <http://Benenesse.jp/berd/center> (2010.01.18.)
- 7) 看護師等養成所の運営に関する指導要領, <http://www.hourei.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T110217G0041.pdf>, p.19. (2011.3.18.)
- 8) 佐藤禮子: 看護のFDという視点からの学習支援の必要性, 看護教育, 50巻7号, pp.574-578, 2009.

参考文献

清水亮, 橋本勝, 松本美奈編著: 学生と変える大学教育 FDを楽しむという発想, ナカニシ出版, 2009.